

授業科目名 <英訳>	理学と社会交流 I Science and Community Outreach I				担当者所属・ 職名・氏名	理学研究科 講師 理学研究科 教授 国際高等教育院 教授	常見 俊直 馬場 正昭 下林 典正				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2016・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
科目番号	1003										
[授業の概要・目的]											
<p>理学全般についての講義を行う。その中で、講義中での例として、京都にちなんだ例をあげるなどして、京都で学ぶ意義や意味について考える。</p> <p>科学・技術との社会との関係を考え、また、理学を社会に伝えるための具体的活動について学ぶ。さらには、社会交流活動の企画・実施方法について学ぶ。</p>											
[到達目標]											
<p>理学を通して京都と関連のある事柄についての理解を深めるとともに、京都地域についての理解を深める。また、社会交流活動についての実施手法について、具体的な活動を用いて理解を深め、受講生が活動実施するにあたり、基礎的な力量を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>講義当初は、既存の社会交流活動の紹介を行う。また、2回程度、理学の各分野と京都とのつながりの講義（ ）を行う。さらには、受講生自らが参加した社会交流活動の体験・経験をもとにグループワークおよび議論を行い、まとめを行う。</p> <p>第1回 講義の概要説明、グループワーク 第2回 理学と社会交流 導入 第3回～6回 社会交流活動の紹介 第7回～10回 理学と社会交流についてのグループワーク 第11回～13回 理学と社会交流活動についての報告・議論 第14回～15回 まとめ</p> <p>理学の各分野と京都とのつながりの講義 「大文字山の岩石と鉱物」概要 京都大学を見下ろすように東山連峰にそびえ立つ大文字山（如意ヶ嶽）は、京都に夏の終わりを告げる五山の送り火でも有名で、ハイキングコースが整備されるなど市民に親しまれてきている。京都盆地は三方を山々に取り囲まれているが、その山々の中でも大文字山から比叡山にかけては花崗岩が分布しており、その花崗岩が周囲の堆積岩層に及ぼした影響によって接触部にホルンフェルスと呼ばれる岩石も見られる。本講では、大文字山周辺に分布するそれらの岩石およびその岩石中に含まれる鉱物に関して紹介する。</p> <p>なお、興味を持った学生がいれば、課外活動として週末に大文字山地学ハイキングを企画することも考えている。</p> <p>「左京，東山の環境とエネルギー」概要</p>											
----- 理学と社会交流 I (2)へ続く -----											

理学と社会交流Ⅰ(2)

京都大学が位置する左京，東山地域には，今も美しい風景が多く残され，地域の人々が協力して保全に努めている．しかしながら，京都に生まれ受け継がれてきた素晴らしいものをこれからも守っていくためには，理学の知識と応用が不可欠である．おそらく最も重要なのは，きれいな水の循環，植物生態，再生可能エネルギーなどである．授業では，これらの観点から現状を紹介し，理学部で研究が行われている科学研究との関連を考えてみたい．

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

社会交流活動に関するレポートおよび講義中での議論への参加具合により評価する。「理学と社会交流」への知識全般の中で、自らの体験・経験の位置づけをできることを評価基準とする。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Gilbert and Stocklmayer 『Communication and Engagement with Science and Technology: Issues and Dilemmas』 (Routledge) ISBN:978-0-415-89626-9

(関連URL)

<http://cr.sci.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学大学院理学研究科社会交流室)

【授業外学習(予習・復習)等】

積極的に、京都地域に自ら赴いて、地域社会との交流をすることで、講義内容を踏まえた上で、地域社会との交流を進めることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

土日祝日に社会交流活動・フィールドワークを実施するので、1回以上社会交流活動に参加することが望ましい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。